

次なる歴史を刻もう！

会長 鈴木 精成

平成二十九年の幕開けを私達は深い悲しみとともに迎えました。

家元・横山岳精先生の旧臘三日ご逝去の訃報でした。「千代田三十周年記念大会が盛大に開催されましたことを心よりお祝い申し上げます」のお葉書を十一月二十四日に頂いたばかりでした。

衷心よりご冥福をお祈りいたします。昨年、千代田岳精会の新しい歩みがスタートした年でした。



平成 2 9 年 1 月
千代田岳精会弘報

平成廿九年指標
概

平成二十八年十一月二十日(日)この日「千代田岳精会創立三十周年記念吟道大会」が千代田全会員の参画と横山精真宗家以下流統本部の幹部諸先生、近隣会長、支部長の先生方、賛助吟詠の吟友の参加を得て盛大に開催されました。四〇〇名余の参加者が会場を埋めた光景は圧巻でした。一堂に会した千代田吟友の晴ればれとした表情、大会開始前の元氣溢れる挨拶の交換情景で、この日の成功を確信いたしました。

大会第一部での教場合吟は事前の練習時の不安を一掃する見事な吟詠が披露され「さすが千代田」との皆様の言葉が聞こえてきました。

「暗譜吟詠」も殆どの方が「我がもの」とされていたのはこれからの為に心強い限りでした。中堅層会員の出吟を中心として企画された構成吟「真善美」も複数回のリハーサルの結果で見事な吟詠でしたし、またスクリーン映像も七人のプロジェクタチームの取り組みで斬新さ溢れるものでした。ご来賓の先生方からも、吟と映像のマッチングに高い評価を頂きました。一年半に及ぶ企画、準備の委員会取組みを徳本順風委員長のリーダーシップで進めて参りましたが、関係者全員の協力の賜であり、当日の実行グループの大変なご努力と合せて厚くお礼申し上げます。

「記念大会」で盛り上がった昨年でしたが、平素の活動を通じていろいろな成果を得た一年だったと思います。

一、継続的な新会員の入会があった
二、六回にわたる「層別研修会」が多くの参加者で活発に行われた

三、「自主研修会」が新たな広がりで積極的に行われている

四、ブロックの連携が強まった

右のような事が挙げられますが、私達の活動原点は何と言っても「教場」にあります。

「明るく、元氣な、得るもの多し」の教場を目指したいものです。

迎えた平成二十九年、次のことに取り組む一年にしたいと提案いたします。

年間スローガン

「新しい吟友とともに、吟声高らかに 明日へ！」
一、教場体制をしっかりと固める

現在の吟友相互の活氣溢れる研修の場に、新しい仲間を迎え入れ、一層元氣な教場づくりをみんなで行う

二、「無料講習会」(体験会・発表会等のかたちもあり)の開催を通じて新しい仲間との出会いをつくらう

三、地縁、人縁を生かしての新たな拠点づくりに取り組む

四、層別研修会の一層の充実により、会員の吟力向上に取り組む

五、「昇任審査会」(四月十六日)への全員参加
六、「武道館コンクール」(十一月一日)への単独

チーム参加

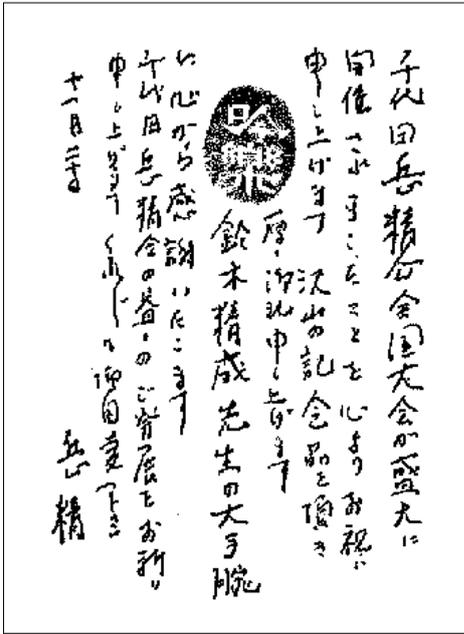
次なる千代田の歴史を刻む第一歩、迎えたこの年を明るく元氣な一年にしましょう。

横山 岳精 家元

岳精流を昭和五十二年に創設され、全国的組織を持つ会として多くの会員を育てられた家元が十二月三日ご逝去されました。享年九十九歳

お通夜・告別式は曹洞宗大本山総持寺で十二月八・九日に宗家を喪主として吟剣詩舞道連盟他、各界からの参列者、全国から駆け付けた会員が参列して執り行われました。

詩吟中興の祖といわれた木村岳風先生の一弟子として師の没前に岳精の号を授けられ、その衣鉢を継ぐ第一人者として指導された偉大な姿に接することが当たり前のように思っていたお膝元の我々にとつて大きな悲しみです。ご冥福をお祈りいたします。



故横山岳精家元から頂戴した葉書

千代田岳精会創立三十周年記念

吟道大会 盛大に開催

昭和六十年、飯田精鷹初代会長が明治生命社内同好会を岳精流日本吟院千代田教場として発足して三十年を迎え、十一月二十日浅草ビューホテルに横山精真宗家はじめ総本部幹部及び近隣会・支部長十七名をご来賓にお迎えし、賛助出演頂いた六会・支部七十四名のご参加を得て会員、見学者と合わせ約四〇〇名の出席者で開催されました。当日は前日の雨も上がり、会員の心を表すような快晴となり準備で前泊の方、朝早く出てきた会員で四階の会場、ロビーは開場前から人で溢れていました。

酒井龍帆副会長の急逝で、急遽実行委員長を引き受けた徳本順風実行委員長の周到な計画とリーダーシップで一〇〇名を超える実行委員が一年半の企画から準備に取り組んだ成果が見事に形をなし、教場合吟に始まったプログラムは司会をはじめとした各担当が手際よく進めて、タイムスケジュールに殆ど違わず整然と進められました。宗家の「山行」、ご来賓の祝吟、賛助吟詠：新しい会員にはレベルの高い吟詠を一度にこれだけ多く聴ける機会は何難いことです。

式典一で宗家、滝田精芳最高顧問、家吉精雄幹事長から、飯田前会長の飯田塾時代から総本部の指針に地道に取り組んで岳精流第一の規模に育った千代田へお褒めの言葉がありました。宗家と鈴木会長への花束贈呈。式典二の会員増強功労者表彰は二年が対象で数の多さに賛助出演席から

驚きの声が漏れ、二十五年以上の永年会員が表彰されて、いよいよ構成吟「真善美」三十番が剣詩舞六番とともに一五四名の登壇で演じられました。三回のリハーサル、特に最後の総稽古には尺八の奥本林山先生の伴奏で初めての方達には貴重な経験でした。

大合吟「千代田城」は我会以外ではまず詠じない難曲で教場の練習でも苦戦していたが、会場一杯に声が響き納得の吟詠でした。

祝賀会は三階・飛翔の間に席を移し、三〇〇名を上回る参加で宗家の乾杯の音頭で緊張がほぐれ、一気に盛り上がりました。会員全員が登壇し、何かの役割を持って開催された大会は後日ご来賓の先生方から高い評価を頂いて、この規模でこの内容で終えられたことを、会長をはじめとして一同誇らしく思います。



モンブラン(アルプス最高峰) 星野久風(清水)

記念大会舞台係を担当して

リーダー 萩原 晴風

千代田岳精会三十周年記念吟道大会が盛会裡に開催された。昨年四月に企画委員会を、その後格上げされた実行委員会による綿密なシナリオが作られ、スケジュール管理が成されてきた。

舞台係はその中の一部門として当日事故のないように務めることを目指してプログラム、進行の時間管理、実行係各部門（進行・音響・照明）との連携等に重点を置いて作業に当たった。舞台昇り降りの介添え、足元の照明、衝立による安全歩行等、音響係・照明係の皆様にも多大な協力を頂いた。

今回は舞台担当者も、式典の準備と終了後の片付け以外はA班・B班に分けて吟を聴く時間を確保した。

式典進行が多少遅れたが、片付け後の構成吟の準備で挽回し予定時間で終了することが出来た。大会スローガン「輝く千代田 誇りを持って明日へ！」と千代田三〇〇名の底力を十分發揮した大会であったと思っている。

三十周年記念吟道大会 司会担当

サブリーダー 池田 康風

十一月二十日、好天に恵まれ千代田岳精会三十周年記念吟道大会が無事盛大に終わり、本当に良かったと思います。

この度は、司会の大役を仰せつかりました。本

番はリーダーをはじめスタッフ三人が心一つに頑張る事が出来ました。全員初めての経験で何回も打合せ練習を重ね、少し緊張しましたが四人共に気持ちよく発表出来ました。これも偏にリーダーの廣田先生の見事な心配りのお蔭で、当日は全員あまり心配せず落ち着いて取り組む事が出来ました。私自身も本当に良い体験をさせて頂きました。また当日、それぞれの担当の皆様が一生懸命、一丸となって動かれていた姿が印象に残りました。

これで、ますます千代田岳精会が発展して行く事を確信いたしました。



三十周年記念吟道大会を終わって

実行委員長補佐 犬飼 勇山

やっと終わりました。

随分長い間準備をし、その結果として多くの来賓の方々から「まれに見る素晴らしい記念大会だった」とお褒めの言葉を頂き終了出来た事を誇りに思っています。

それとと言うのも舞台・進行・照明・音響・会場・受付・接待；等々。二十周年の記念大会を経験していない我々担当者を上手に纏めながら多くの前例を参考に示し、一丸となったより良い大会運営のために工夫を凝らし、力を結集して事に当たれるように仕向けてくれた徳本大会実行委員長が居たからだと思えます。

一年以上の長いスパンを後戻りすることなく、飽きさせずに前に進めながら当日に最高のパフォーマンスを發揮するように、全員の意識を盛り立てていく指導力は流石でしたと言わざるを得ません。

我々を相手に長い期間、胃をキリキリと締めあげられるようなストレスに苛まれてこられた事だろうと、お察し申し上げます。しかし、終わり良ければ全てよし、だったのでしょか？ 良かった事も多かったでしょうが、失敗したなど思っている事も少なくないはずですよ。

十年後に四十周年を企画する我々の後輩達に「一から始める苦勞を負わせないために、何をしたいのが良かったのか、何をしなければいけないのかを教訓としてしっかりと書き送って行きたいと思いませんか？ それを出来るのは担当した方達だけだと思います。より上手くやるためにはどんな手順で進めなければならぬか、何をすべきだったのか？ そして、こうやったのは良かった

た、も書きたいものです。

秋の昇伝審査

恒例の奥伝以上・師範審査が十一月三日文化の日にかわさき保育会館で開催され千代田から十七名が受験し、全員が立派な成績で合格されました。おめでとうございます。今後の益々のご活躍とご健吟を祈ります。特に湯山龍徳氏は九十六歳最高受験者として宗家から会場で紹介されました。

皆伝 澁谷 龍報 (銀座)

湯山 龍徳 (清水)

奥伝 犬飼 堯風 (鎌倉)

山本 薫風 (ハザマ支部)

二井内 壽風 (同)

奥伝師範 本多 里風 (日暮里)

小林 公風 (志茂)

中伝準師範 森田 準山 (丸の内支部)

鶴飼 輝山 (東陽町支部)

橋本 隆山 (神楽坂)

日吉 鳳山 (ハザマ支部)

滝沢 春山 (ハザマ支部)

井田 舜山 (生田)

清水 清山 (生田)

報恩感謝

銀座 顧問 澁谷 龍報

まずは、千代田岳精会創立三十周年記念吟道大会が全会員の努力が結実して盛大且つ成功裡に終わったことを心からお祝い致します。また私自身、永年会員功労者表彰を受けて感慨ひとしおでした。更に米寿を迎えたこの年に宗家先生の皆伝審査を受けることが出来たのは望外の喜びでした。

実は今を去る二十一年前の平成七年、偶然紹介された千代田支部東陽町教場に入会した時はこれ程長く詩吟の道を歩めるとは思いもよらなかったのですが、これも偏に故飯田精鷹、磯田精信、鈴木精成、岩崎精慶各先生はじめ多くの先輩、吟友、そして後輩の支えと内助のお蔭だと有難く感謝している次第です。

その間、各教場での吟の研鑽に加え宗家先生のご指導を川口カルチャー教室で受ける一方、詩歌研修会のリーダーを務めたり各種行事やコンクールに積極的に参加する等、自らの、また吟友の吟力向上に少しでも寄与すべく努めて参ったつもりです。

こうして多くの吟友と知己を得る事が出来ましたが、その反面優れた友が少なからず去られるのを送らざるを得ませんでした。そして近くは、大槻、高橋さん達同輩が、伝取得直前に惜しくも他界されました。

今回私が皆伝受審を決めたのは、せっかく与え



られた機会を生かして後輩の励みにもなればとの思いからでもありました。残念ながら私も二年前体調を崩し、関係の皆さんにご迷惑をお掛けしただけでなく、肝心の今大会準備運営に全く関与出来なかったのはまさに痛恨事でした。

今後は体調を整え「残軀は天の許すところ」の心境に、報恩の意を含む龍報の号で吟樂を続けようと念じて居ります。

馬齢を重ねて

清水 湯山 龍徳

平成二十八年の千代田申年の年男・年女一覧によると大正九年生まれは不肖小生一人で、昭和七年十五名、十九年二十二名、三十一年一名、四十二年一名、計四〇名で高齢者の首位に存在し汗顔の体です。お陰様で馬齢を重ねましたが、これも偏に吟友の皆様の支えと励ましのお蔭でこの歳まで長寿を保つ事が出来ました。

幼少時代の生い立ちを振り返って見ると、学歴は尋常・高校の八年間でした。性格は気弱で大変な吃音で恥じ入るばかりでしたが、平成八年十一月十八日より詩吟で発声し、現在息子の内、長男家族と同敷地内別棟で一人で暮らしています。長年連れ添った家内が昨年十一月三日、九十歳で逝去しましたが単独の生活とはいえ、身内と吟友との友好な絆のお蔭と信じます。

また、嫁の気遣いで現在老人ホームリハビリボエで週三回送迎され楽しく過ごしております。

十一月三日かわさき保育会館で行われた皆伝

の審査で、宗家の前で「歩いてゆけなければ」武者小路実篤を吟じました。幸い皆伝に合格。雅号龍徳を戴き会場を後にしました。

残された人生を、俳句、書道、詩吟に精進し頑張る所存です。最後に俳句二題

「生きている 限り夢持ち 木の葉髪」

「余生とて 明日はかられず 百日紅」



奥伝授与に寄せて

ハザマ支部 山本 薫風

月日の過ぎゆくことの早い事、奥伝のお許しを頂き感慨深く入門の頃を思い出します。詩吟の奥深さを知る事もなく過ぎて参りましたが、最近ようやく吟の良さと楽しさを知るに至りました。その間会長をはじめ吟友諸兄の懇切な指導のお蔭と感謝しております。

六年前視力を失い、その折は詩吟を諦めなければと思いましたが、吟友諸兄の励ましを頂き、迷惑をお掛けしながら、今日まで休む事なく練習に励んで参りました。

また準師範の受験の折には、鈴木会長に無理なお願いをいたし、宗家の面談をお許し頂き、宗家からの励ましが吟への研鑽と努力の思いを持ちました。

これからも余生を、詩吟を糧に過ごして参りたいと思いを

いと思いを。

詩吟を始めたのは

ハザマ支部 二井内 壽風

私が詩吟という言葉を知ったのは昭和三十六年にダム現場にいた二十五歳の時でした。当時の社長を迎えた席で、合吟で十五人で詩を吟じました。定年後、ハザマ詩吟同好会幹事の故佐藤昭二氏から健康に良いからお誘いを受けましたが、私は左耳が難聴でしたので伴奏が聞こえないと思ってお断りました。

その後詩吟について調べたところ、漢詩の勉強になるし、大声を発する事で健康に良く元気になる事が分かりました。平成十五年頃、ハザマ友会の歩こう会の仲間、萩原晴風現教場長から勧められ入会し、二月一日初めて修得手帳に「貧交行」杜甫と記入しました。飯田前会長から腹から声を出せと言われ、何も分からず大声で怒鳴ったらその声が正解だと言われ、一遍に身体が楽になりました。その後躍進クラブに入り、他の教場の吟友の吟を聞く機会も増えましたが、平成十八年左右の耳の聴力が落ち十か月休会しました。その間、鈴木会長や吟友から励ましの手紙を貰い、補聴器を付けて教室に戻りました。今はコンダクターで音を確かめる自習をしています。

今回奥伝を受審し雅号「壽風」を頂き、雲の上の段位で驚いています。素読百遍、初心に戻り自分の吟を磨いて行きたいと考えています。

奥伝師範を受験して

志茂教場長 小林 公風

奥伝師範を拝受して責任ある立場となり、恐れをなしています。模擬試験をして戴き把握していたものの、いざ本番になり漢字を忘れ、この吟知っていると一時間ほどの真剣勝負、七十歳代にしてこの様な経験を大事にしたいと思えます。

吟力の向上に向け今まで以上に漢詩を学び作者の気持となり、しっかりと勉強していかなければと痛感致しました。試験と言うものは自分を新たに色々と考えさせられる良い機会だと思えます。

宗家のお言葉で「指導は伝道伝達であり、共に学ぶもの」と常に認識して、教場の皆様に助けられながら「行くのが楽しみ」と言われる教場でありたいと望んでいます。鈴木会長、諸先生方、諸先輩のご指導深く感謝しております。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

奥伝師範を拝受して

日暮里教場長 本多 里風

久し振りのペーパーテスト、続いて面接ととても緊張しました。歳を重ねていくと、新しい事に取り組むより暗記の方が苦手になります。例題にならない、固くなりつつある脳を働かせました。頭を使う事は決して無駄にならなかつたと思いま



す。多分それなりの成果は出せたかな？と思っております。

今回の試験は師範としての素質を問われる事でもあるので真摯に取り組みました。これからもこの志に変わりありません。

今日迄、そしてこれからも先生方からご指導頂いて来た事をより咀嚼して教場の皆さんと話しながら役割分担し、私は主に範吟に力を入れていこうと思っております。その為に研鑽を重ねていこうと思っております。

「気を養う」為にも各自の個性を生かしての吟力アップ、そして吟の輪を広げていけるように明るく楽しい教場作りを、師範としての役割に恥じないよう努めていこうと強く思っております。

準師範とは

丸の内支部 森田 準山

この度、準師範の資格を頂戴することになりました。これは偏に鈴木会長、磯田先生、岩崎先生、山口教場長はじめ諸先輩のご指導の賜と感謝申し上げます。

準師範とは師範を助けて指導が出来るという事なのですが、正直荷の重い感が致します。私は今年八十五歳になり、体力の衰えは隠せませんが、何事につけヤル気は盛んでこの歳になつて漢詩作りの勉強を始めたのもその一例です。

その他俳句も才能もないながらも二十年近く続けていますし、日本民謡も詩吟と同じくらい続けています。更に子供の時から続けている山登りは

今でもリーダーを務めています。

しかし詩吟の準師範というのは全く未知の分野で、どのようにお役立ち出来るか分かりません。どうか引き続きご指導頂くよう、皆様をお願い致します。

準師範を受験して

神楽坂副教場長 橋本 隆山

当日は前夜の雨も上がり、小春日和のような天氣に恵まれた。会場までの時間を考え、朝早く家を出たが途中の乗換えに時間がかかり、待ち合わせの時間に遅れてしまいました。会場は老若男女の受験生で溢れる程でした。

開始に当たって「真善美」を唱和し、宗家の挨拶、激励を頂き夫々の受験場へ散った。

やがて、用紙が配られ開始された。深呼吸して問題を眺め、回答を記入していった。当日の受験者に顔見知りの方も居られ心強いものがあつたが、面接までは相当時間があり苦痛であつた。

面接は総本部の園田精鵬先生であり、気さくな人柄に接し、緊張がほぐれる思いであつた。

この度、はからずも受験の機会を得て合格出来たことは誠に嬉しく、これからも岳精流の発展、千代田岳精会に寄与出来る指導者となるべく精進致したい。合格に際して、指導頂いた諸先生並びに吟友に心からお礼を申し上げます。

春の昇伝審査(二)

初伝審査を終えて

ハザマ支部 古谷 嘉泉

昨夜の雨も上がり、新緑の眩しい空気を吸いながら会場の東郷記念館に向かいました。

三年半前神楽坂の無料講習会に誘われ、楽譜も読めない音楽赤点の私が千代田岳精会に入会しました。難聴で心臓に持病があり、吟じ出しの音が外れ挫折寸前でしたが、褒め上手の先生方や先輩の指導に何とか今日の日を迎えることが出来ました。

四回目の審査ですが、素読・練習を重ねる注意点はことごと、ことごと頭に入れたつもりでしたが本番では緊張で全て飛んでしまいました。講評では練習時に注意されていた所を鋭く指摘されました。もっと練習して平常心で注意しなくても吟じられるように努力しなければと思いました。

壁に宗家の平成二十八年指標「気を養う」を掲示し、吟道精神を少しでも理解出来れば良しと思っております。健康に留意し継続は力なりをモットーに精進します。

昇伝審査時の気持ち

新宿支部 乙訓 稜泉

東郷神社水交会に着く。木々の若葉が眩しく、



私の心も新鮮で清々しい気持ちになり、池を眺めていたのもつかの間、現実に戻り緊張感が走った。

今日は初めての雅号を頂くための昇伝審査の日。課題吟は二題、四本の声の私にとつては「武

関に宿る」を望んでいたが、当日指定されたのは「湖上に飲す」蘇軾。どうしよう！と気持ちが動

揺した。吟歴の浅い方から始まったが、皆さんすぐく上手。又々、どうしよう！とますます焦りが

つのる。私の番になるまで目をつぶり、腹式呼吸をし自分を落ち着かせている中、フト思い出した。

月曜会で鈴木会長の「吟は言葉に魂を込めて」と、橋本先生の「声を明るく前に出して」と、諸

先輩の「落着いて」との優しい適切なご指導を受けた事を胸に刻み精一杯吟じ終えた。

宗家から「詩情が出て良かった」との講評と、吟じ終えた安堵感で素直に嬉しく、ホッとしました。

これからも精進し、平素の練習を重ねてまいりたいと思います。ご指導の程、宜しくお願い致します。

教場だより

芝大神宮秋季大祭 奉納吟

清水 星野 久風

清水教場では今年も、芝大神宮の秋季大祭（九月十一日〜二十一日）通称「芝明神のだから祭り」期間中の十二日（月）、参集殿をお借りして練習しているご縁から詩吟を奉納した。

当日は鈴木会長も参加され、十一時半に全員集合して練習後十二時拝殿に参内。神官の祝詞奏上、会長と教場長による玉串奉奠の後、各自神前で力強く吟を奉納した。

笹倉和江「菊花」

神谷知泉「垓下の歌」

金岡博人「海南行」

早川滋「静夜思」

矢崎春男「潮来の夕」

宮野信泉「菊花」

湯浅知泉「後夜仏法

僧鳥を聞く」

原口美泉「菊花」

櫻田謙泉「後夜仏法

僧鳥を聞く」

小寫正泉「菊花」



三好弘泉「武野の

晴月」

細川修泉「草庵雪夜

の作」安孫子誠「不識庵機山を撃つの図に題す」

松岡省一「桂林莊雜詠諸生に示す（その一）」堀

田宣泉「芙蓉楼にて辛漸を送る」船津英山「王昭

君」湯山申風「芙蓉楼にて辛漸を送る」星野久風

「絶句」徳本順風「九月十日」村上龍道「涼州詩」

終わりに鈴木会長の「菊花」で締めていただいた。

吟詠中にも拝殿前には参拝をする方々が引つ切りなしに訪れ、聴き入って下さった。

年男・年女

今年の干支は丁酉ひつじです



六回目の干支を迎えて

生田 二反田 奉泉

第二の人生から早や十二年を迎える事となりました。私は小学生から剣道を習い途中十年超ブランクがありました。未だ若い人と剣を交え稽古に励んでシニアの試合等にも出場し、鋭気を養っております。体力にはかなり自信を持っておりました。しかしながら五年の節目毎に体力の衰えを感じておりましたが、七十歳を超えてからは特に衰えを感じており歳には勝てない旨を痛感し



ている今日この頃です。

ならば今後の生き方を考えますと、悔いのない人生を送るには自分の気持ちの持ち方一つと思っております。まずは趣味を生かし楽しく過ごすこと、幸い私は今剣道、ゴルフ、写真、OB会の歩こう会等、また六年前には詩吟との出逢いで一週間の殆どを費やしている生活です。日々「気を養う」ことで生活に張りが出て、体の衰えも鈍くなるのではないかと思います。これから何事をするにも剣道では「気・剣・体・一致」という言葉をよく使いますが、まさしく気剣体一致で目的、目標をしっかりと持ってやらなければ、上達もなければ気力も芽生えず、やる意味がない事となります。まずは十年、そこまで生きれば又十年と目標を立て死ぬまで元気をモットーに楽しく生きれば宜しいのではないのでしょうか。

皆さま吟友と出会えた事と、詩吟をやる事で益々の生甲斐を見出し、衰えも抑えられる事を祈念しております。今後とも、よろしくご指導ご鞭撻の程お願いします。

今思うこと

新宿支部 半村 晃泉

今年十二支「酉」の年、私は年男になりましたが、今思うと六十干支（還暦）の時、仕事をリタイアした後のながい時間、その過ごし方を考えたことがあった。

後日になるがその答えは「仲間を作り会話をすること・毎日身体を動かすこと」であった。今で

はこの答えを実践するため「週一回のグランドゴルフ・月三回の詩吟・月一回の山歩き・そして毎日の家庭菜園」に忙しい。朝起きた時やることが目の前にある、楽しい事だ。

この考えの基になったのは散歩の途中で見た石材店の句碑「長寿吟」である。「六十、七十は働き盛り、九十になつて迎えが来たら百まで待てと追い返せ」とあった。これは「心身とも健康で長生きしなさい」と言っている。

では、詩吟に触れてみる。詩吟は「大声を出す・腹式呼吸」これが健康に良いと文献にあったが、それはそれで良い。自分の詩吟は下手でどうにもくここのため息。

七十才からの詩吟

新陵 滋野 輝彦

二年前に大学時代の運動クラブの仲間に詩吟の入会を勧められ、思いもなかった詩吟の世界に入りました。もとより経験のない私が、教場にて吟題を渡され二十名程の先輩と共に鈴木先生より教えを受けました。歌も好きなこともあり親しみのある世界と感じ、この年ではあります。やるからには納得出来るまでと、それ以降自分なりに鈴木先生のまねに徹し、詩吟を勉強させて頂きました。

また、教場では仲間の方々と共に楽しく至福の時間を過ごさせて頂き、まさに第二の人生でもあります。腹から大きな高い声を張り上げ、必死になつて

詩を暗記し、ボケていられなくなりました。最近コンダクターを手に入れ、出来るだけ多くの吟題をマスター出来ればと願っております。

【新会員紹介】

◇丸の内支部教場

永長 隆房氏（六月入会）

今年六月、会社同期会の近況報告で西野宏君が新宿の詩吟教室に通い始めたとのこと。兄から誘われていた同じ場所と分かり、教室は違いますが、彼に刺激されて始めることになりました。今では皆様の熱心に吟ずる姿に触れ、感銘を受けております。

◇草加教場

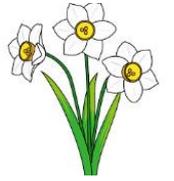
一瀬 聖子さん（七月入会）

ご自宅から近いとの事でハザマの日吉風山さんにご紹介頂きました。スレンダーで物静かな方です。音楽、踊り、卓球と多趣味で入会前から岳精流全国大会に行かれるほど詩吟に興味を持たれていまして。教室では堂々と独吟され、大型新人として大いに期待される草加の聖子ちゃんです。

◇桜ヶ丘教場

真田 弘子さん（八月入会）

マンションの同じ棟に住む笠泰泉さんとエレベーターで一緒になりました。ふと笠さんの手元に目を落とすと、漢詩の詩文でした。他の流派の稽古を止めていたので、教室を見学させて頂きました。岳精会との出会いです。



◇清流教場

瀬戸口 千春さん（三月入会）

明治生命入社間もない三〇年前に本社で詩吟を勧められました。詩吟？と、？が付いたまま年月が経ちました。その後菅原先生とご縁があり教室を見学、皆様の力強いお声に魅了され入会させて頂きました。立派な音痴であります。が細々と続けていきたいと思えますので宜しくお願い致します。

◇清水教場

安孫子 誠氏（四月入会）

良き先輩からの紹介と晩年に父が詩吟をやっていたことを思い出し、入会いたしました。これからは詩吟をより親しみ、実りある人生を送りたいと誓いました。教場には休まず出席し、長く続け頑張りたいと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◇逗葉教場

笹倉 和枝さん（四月入会）

この度、ご縁を頂き千代田岳精会に入会させて頂きました。精一杯頑張つて皆様について行けたらと思っております。明るさだけが取柄の私です。年毎に物覚えが悪くなり…先生はじめ諸先輩方にはご迷惑をお掛けする事と思いません。何卒ご指導宜しくお願い申し上げます。

◇神田教場

中屋 保之氏（二月入会）

一篇の詩が置かれています。一昨年に見送った両親の位牌と真新しい妻の位牌を収めた我家の古い仏壇の前に「哀悼の詩」本宮三香作です。昨年八月に旅立った妻の納骨の日、義兄である平井武泉さんが吟じて下さいました。正直、どんな吟であったかは全く覚えておりません。訃報を知った沢山の人が、空虚感に陥っている私のために声をかけて下さいました。

年明けに、中学校時代の友人が食事に誘ってくれ「人と関わりを持って、大きな声を出せ、身体を動かせ」とアドバイスしてくれました。その時、平井さんの吟を思い出しました。友人も背中を押してくれました。元来が新しい事を始めるのに億劫な私なのですが、心強い義兄の存在と、見学時の神田教場の皆様の温かい眼差しに勇気づけられ入会させて頂くことに致しました。"毎朝、臉に浮かぶありし日の面影"を偲んでいます。

◇用賀教場

関根 哲夫氏（五月入会）

二〇一六年五月に用賀教場に入会しました。世田谷区報に会員募集の知らせが載っているのが目につき教場長に連絡をして練習風景を見学させて頂き、大きな声を出して健康にもなると思い、家から徒歩で通える点が魅力で入会した次第です。

◇ハザマ支部教場

松田 俊二氏（八月入会）

二十八年八月にハザマ支部教場に入会致し

ました松田と申します。初めての詩吟挑戦で日々練習に励んでおります。特に吟譜の理解不足で教場の皆様にご迷惑をかけているのが現状です。誰よりも早く先輩諸氏に追いつけるよう頑張つて行きたいと思えます。

◇新陵教場

西川 清悟氏（七月入会）

大学同期の飲み会で小梶さんから詩吟教室の紹介があった時、酒の勢いもあってか、思わず「詩吟を習いたい」と叫んだのが入会のきっかけでした。心のどこかに詩吟への想いが潜んでいたのかもしれませんが。趣味のテニスで体を鍛えつつ、詩吟の奥深さを追求してまいり所存です。

能島 伸夫氏（九月入会）

- 一、趣味 ゴルフ、レコード鑑賞
- 二、抱負 基本をしつかりマスターし一通り吟じられる水準
- 三、入会の動機 ①大学詩吟部の先輩に勧められたこと ②諸先輩方との交流が深まること ③シニアライフ充実のため

◇新宿第二教場

長谷川 京子さん（五月入会）

私は三年前から病気に度々なり、やっと元気になりホッとした時に自転車から落ち、圧迫骨折にあい又入院し、やっと歩けるようになって落ち込んでいた時にいつも暖かく励まして下さる町田さんから、カラオケに誘って頂いて歌ったところ声がかすれて歌う事が出来ません。その時町田さんから詩吟を習うと声が出ると

教えられ、入会させて頂きました。大きな声を出すと本当に良い気持ちになりました。皆様のお助けを頂きながら頑張ります。宜しくお願ひします。

「詩吟無料見学会」と題して

桜ヶ丘教場長 廣田 了風

教場が終わり会員さん達と食事に行ったとき、一人の会員さんから「友達を見学に来て来たい」との話があり、それでは久し振りに「見学会」との話になって教場のありのまま、普段の姿を見てもらおうとの程度の主旨でした。決めたら本気になるのが私の性分、すぐに企画し五月九日の教室の日に開催と決め、手作りのチラシを教室のある公民館のスタンドにも置かせて頂き、会員全員で取り組みました。ところが又々ひよんな事から千代田の女子研修会に来て下さった渡精華先生と終了後の懇談会の中で、指導にお出で下さる事になり、となればただの見学会では済まないと思ひ、定員四十名の教室も満室にしなくてはと、計画がどんどん膨らんで行きました。

チラシも増やし教場全員で呼びかけに奔走しました。結果はお蔭さまで、先生方を含め会員二十一名、見学者二十五名という定員オーバーの素晴らしい公開講座となりました。

渡先生のご指導は「胡隠君を尋ぬ」高啓作、後半は見学者の方達からも声が響いて来ました。皆さん他流で少しは経験があるのでは？と思うほど、私が一番びつくり致しました。最後に会員

と見学の皆さんとの合吟となり、素晴らしい四十数名の高らかな合吟でした。

見学の方達には、お煎餅二個とボトルのお茶一本をテーブルに置いて、休憩時間は和やかな雰囲気となり途中帰られたのはお勤めの方一人でした。最後まで詩吟を楽しんで頂いたのが最高の喜びでありました。

教場もいよいよ七年目に突入し、私も益々吟を磨かなければとしみじみ思わされた「無料見学会」でありました。結果は二名の入会という大成果でした。今後へ繋がる期待もあります。



訃報

◆垂井 隆泉氏（新宿支部教場）

六月一日ご逝去されました。
享年七十四歳 謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆濱口 顕山氏（新宿第二教場）

九月二十五日ご逝去されました。
享年七十二歳 永年、弘報部員としてご活躍されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

創立三十周年記念吟道大会は、会員全員が参加して見事な大会だった。小生が経験した大会は二十周年、二十五周年と今回の三度となるが、十年前の二十周年は明治安田生命新宿ビル・大ホールで二〇〇名の大会参加を花道に故飯田精鷹初代会長が勇退、鈴木精成二代会長が就かれた。

大会毎に発行の「ちよだ」記念号の年史のとおり、草創期、ゼロから会まで吟と組織に指導力を発揮された功績は岳精流第一の規模と育った千代田とともに輝いている。この十年は高齢化対策の「吟友呼び」「拠点作り」「無料講習会開催」の取組みを続け、先輩の三河、多摩、六郷等と共に岳精流を背負う会へと成長できた。

今後、千代田の持つ他会にない利点を生かし、ビル立替えに伴う教場問題等会員の皆さんの英知で取り組みましょう。

原稿を編集担当の和田氏へ送った後、横山岳精家元急逝の訃報に接した。吟界のレジエントとして偉大な足跡を残されたご高齢の岳精会の礎が天に昇られた。小生も本部広報として近くで仕事をしして参り喪失感を抱えています。

一年間のご支援、ご協力に感謝いたします。



(八田
仁風)